

令和2年度 交通安全作文募集
優秀作品集

交通 安 全



令和2年度 山口県交通安全ポスター最優秀賞作品
(山口大学教育学部附属光小学校2年 田村紗夜さん)

交通安全年間スローガン

◎山口県

住みよい山口 いつも心に 交通安全

◎全国

☆運転者（同乗者を含む）へ呼びかけるもの

○ゆとりある 心と車間の ディスタンス

☆歩行者・自転車利用者へ呼びかけるもの

○ママなんで？ 赤は止まると 習ったよ

☆子ども（中学生以下）へ交通安全を呼びかけるもの

○自転車に 乗るならきみも 運転手

は
じ
め
に

「住みよい山口 いつも心に 交通安全」交通事故のない、住みよい山口県はみんなの願いです。
このためには、県民一人ひとりが交通ルールと交通マナーを守り、そのことを習慣づけることが何よりも大切です。

この作文集は、令和一年秋の全国交通安全運動の一環として、各警察署、各地区交通安全協会及び各教育委員会並びに各学校のご協力により、小・中学生から寄せられた五二二点に及ぶ交通安全作文の中から優秀な作品を選び編集したものです。

こどもの立場から見た交通安全についての貴重な意見や考え方が素直に述べられています。
交通安全意識の普及・啓発と交通事故の防止に役立てていただければ幸いです。

令和三年一月

一般財団法人 山口県交通安全協会
会長 久保正人

もくじ

小学校の部

最優秀	運転手さん、知っていますか？	河本勇希				
やさしさのおうだん歩道	柳井市立柳井小学校	五年				
こうつうルールのたいせつさ	光市立浅江小学校	二年				
こうつうじこぼうしのための ぼくのねがい	山陽小野田市立高千帆小学校	二年				
思いやりの心で安全に	岩国市立愛宕小学校	四年				
交通事故から命を守る	周南市立徳山小学校	五年				
佳作	周防大島町立城山小学校	一年				
おうだんはどうはてをあげて	岩国市立愛宕小学校	三年				
事こを起こさないようにマナーを守ろう	周南市立徳山小学校	一年				
水津尊	村上優心	浦齊田愛穂	齊藤涼佑	岡村享涉	川渉生泰	河丸恋

- 「自分の命と他人の命は重い。」
- 自転車による交通事故をなくすために

美祢市立麦川小学校 五年 上村桃花
光市立光井小学校 六年 品川陽向

令和二年度 交通安全ポスター『最優秀賞作品』

中学校の部

最優秀

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ○ 「ただいま」と言おう | 岩国市立岩国中学校 一年 高田華 |
| ○ 「命が大事」 | 萩市立萩東中学校 二年 山縣宗一郎 |
| ○ 「僕は今日も仮想安全運転」 | 山口大学教育学部附属山口中学校 三年 山下壱護 |
| 佳作 | |
| ○ 「一瞬の油断。一瞬の事故。」 | 美祢市立美東中学校 一年 小林もも |
| ○ シートベルトで守る命 | 柳井市立柳井中学校 三年 兼政きらら |

小学校の部

最優秀

やさしさのおうだん歩道
和木町立和木小学校
三年 河本 勇希

車は止まつてひじねばあちやんがわたるのをまつてしてくれました。うんてんしゅさんの顔を見ると「コーラわりついて、ぼくは何だかポカポカした氣もちになりました。

そつこねば、おうだん歩道にまたぐ山の「やさしさ」があつたことに気づきました。朝、学校に行く時、ぼくたちがあぶくなじ様にちいきの人たちがおうだん歩道で見まもつてくれています。おうだん歩道をわたる時は、車や自転車は止まつて、ぼくたちがわたりあわるまでまつてくれます。下校の時も同じじです。全部、あたり前ではなくて、みんなの「やさしさ」でぼくたちは守られていました。

じつは、このじいじでおさるか分かりません。テレビを見てみると、しんやうがバクバクする様なこわいじいのニュースを見ることがあります。もし、ぼくの大切な人がこんなじい

この間、こつしょにお出かけをしました。
ひじねばあちやんがおうだん歩道をこつむの
様にゆづりわたつてると、車が来ました。
ぼくは、ひじねばあちやんが車にひかれてし
まわないかとドキドキしました。でも、その

にあつたひと題ひと、としも「わらで」。交通じいだ大切な人がきあつかない様に、大人だけになく、まくたちも「もしかしたら」を考えて、近くにじいがかくれてじる」とをわ

すれぼにじいたいと思こまく。そして、みんなが安心してぐらむ様に、おうだん歩道で気づいた「やわしお」で交通安全にことべんでいたじだ。

いたじだ。



運転手さん、知つていまますか？

柳井市立柳井小学校

五年 田丸 小恋

「運転手さん、止まつてください。」

パトカーのサイレンの声と一緒におまわりさんの大きな声が聞こえました。

私は何が起きたのか分からず、としも「キドキしました。すぐにおまわりさんが私たちのところに走つてきました。おまわりさんせ、「横断歩道で手を挙げておられたのに止まらない車がいたので止めました。」

と言いました。お母さんに住所や名前を聞いていました。サイレンが鳴ったのは私とお母さんと妹が横断歩道を渡つたあぐあとでした。

私はお母さん

「横断歩道は歩行者優先だよ。」

と教えてからこまつた。わづこえば手を挙げてじたのに車が通りあれたのを思つ出しました。

横断歩道は歩行者優先だから、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんは、横断歩道を渡るといとしげる人がじたり止まつてじるこだなあと思つました。

最近は高齢の人人が道路を渡つてじるときに、車にはねられて亡くなる事故がふえています。横断歩道がない所を急に渡つてはねられる事故もありまゆ。わづこへコースを見るとともに悲しくなりまゆ。

お父さんやお母さん

「手をまつてくぐり挙げて、運転手さんによく見え るよつこしなじとこかなこよ。」

とよく聞こます。

低学年のお友達はちゃんと手を挙げる人が多じけれど、高学年になつたり挙げない人が

多くよむに思つまく。
「手を挙げなことおうなこよ。」

と私はよく注意をしました。

みんなに直接聞くとさせでもなこので、

「手を挙げて渡れい。」

とポスターをかいて学校にまつしておひつと思つまく。

しかし、わたしたちが手を挙げても止まつてくれない車もこまゆ。わづと

「横断歩道は歩行者優先」

とこつことを知つてもひつて悲しげ事故が減つてしまふぞ。

「横断歩道は歩行者優先」

ところとを知つてもひつて悲しげ事故が減つてしまふぞ。

歩行者もしつかり手を挙げて、運転手さんも歩行者を見て運転するのとを心がけてほしと思つまく。

「自分の命は自分で守る」

と先生や家族に言われるけれど自分の命を自分で守りながら、他の人の命も大切にしたいと思います。

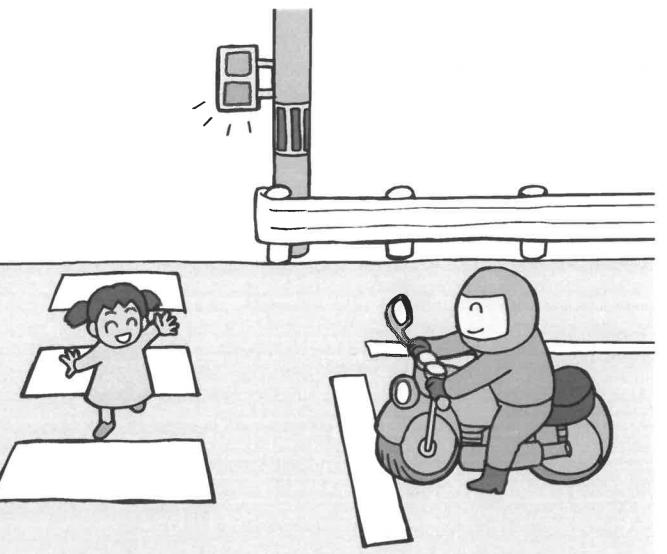
優秀

光市立浅江小学校

二年
岡村
享泰

ぼくは、このツールをまとめさせていた
つしきましたのです。

どうしてかどう



「ひのこかとこのと、一せん上のねにこ
りやんが六年生のときはじめてこの車ドリーバーのつ
じにあつまつた。そのとき、足にはせがせつ
たけれど、ヘルメットをかぶつていたので、
頭はだいじよひでした。われたヘルメット
を見て、ぼくは、びっくりしたのと、このひ
をまわるためには、ソウルのルールをまわり
なれば、しんどしそういふこともあることがわ
かりました。だから、ぼくはじつんしゃのい
るときも、ヘルメットをかぶつていひつ

ルールをかなうぎまもりたいです。

「ほへせ、一年生になる前、おまわりさん」「ねいだんほざいは手をあげてねたりましょ」「う。」

とおしえてわたりて、おうだんほぢうせ手をあげてわたつてじます。手をあげなかつたり、小さいからうんてんする人からは見えないのでもかれるかもしけません。手をあげてわた

ると、うんてんする人も「わたるんだな。」といふことがわかつてしまつてくれまく。おまわりさんは、

「母ちゃん、おれがおれなじ
ねごメーテンねがわうめ。」

とねじられました。だからせせらぎが聞こえ、ここ
が、お風呂場のやうなつぶやきでした。

あさえ小学校のスローガンは、
「いのちをたいせつに 光れ かがやけ あ

トウツうじこぼうしのためのぼ
くのねがい

山陽小野田市立高千帆小学校

ねじこれど、ねばねばんが、ソルベント
にあわなじよつてこへかせへからおねがい
があらまゆ。

一つ目に、おじさん、おばあさんが車にひかれなつよつてあるんじや、車が今きてこな

二年 戸川 渉生

山陽小野田市立高千帆小学校

くのねがい

山陽小野田市立高

二年 戸川渉生

ねじこれど、ねばねばんが、ソルベント
にあわなじよつてこへかせへからおねがい
があらまゆ。

一つ目に、おじさん、おばあさんが車にひかれなつよつてあるんじや、車が今きてこな

じかよべたしかめしわたるよひにひじりひがひに
いとです。今は、ちゃんと青じんじにになつ
てじるか見てわたつひせしこども。わして、
おじさんやおばあさんがわたりとしつ
るときは、車がとまつているかをしつかり見
てほしじです。わらわん車にむおばあさんた
ちが歩くのがおもべて赤しんじになつても
わたつてじたら、わたりおわるまで車はと
まつてじませじです。

一つ田は、夜のおでかけのひとです。夜に
ねばねんたちはあまり外に出ないとはない
と思こますが、出かかる時はへりへて人が見
えにくうので、ワイヤーをもつてほじりと思
あす。

ぼくは、じょりじょり大人になつて車をうん
てんあると思こます。うんてんある時、赤し
んじはせざつたことに思こます。また、ねわけをのぞだり車にのりなじみにじ
てたびにあつてあつてをある時、ありが
たために、じてくわしてこます。ぼくは、そのお
ばあさんにおつてあつてをある時、ありが

ます。そのたぬに、ねわけをのむときには
人がのまなじでのじつたり、こつしょにのん
だり歩こんかざるところと思こます。
ぼくのつりがくにね、こつもみまもりを
しつくれるおばあさんがこまか。なぜおばあ
さんがくるかとこりと、ぼくたかがいひつう
じりやふしづんしゃにつけめりなこゆうにあ
ために、じてくわしてこます。ぼくは、そのお
ばあさんにおつてあつてをある時、ありが
たつのやわらかなつまむ。そのねわけをのん
だり歩こんかざるところ思こます。
大切な人がじつひじつにあわなじよう
に、ぼくもまわりのみんなも一人一人ができる
ことがたくせあります。じつひじつに
のじる（ロゼ）がぼくのながくです。

思いやりの心で安全に

周南市立徳山小学校

四年 齊藤 涼佑

ぼくには、高れいじで運転する祖父母がいます。こつも電話で話をする時、「危ないから、あまり車を運転しないよ」と車をかけます。その声をかけるのは、ぼく自身が危なこと思つたけじ驗があるからです。

ある日の夕方、ぼくは母と学校近くの交差点で、横断歩道の信号待ちをしていました。その交差点は、歩車分の信号をでした。歩行者の信号が「青」になつたので、すぐにわたらうとしたところ、母が「待つて」と言いました。その時、高れいじの方が運転した車が、赤信号なのに止まらず、田の前の交差点を通過してしまつました。高れいじの方を見ると、高れいの方はまつすぐ前を見ており、歩車分り

の信号もじつじつとこまくへくが付いており
ず、歩行者の青信号に青とほんだんした様子
でした。もし、ぼくが気が付かずに横断歩道
をわたつてじたら、事故にあつてじたかもし
れません。

その時、じつじつ赤なのに高れいじの方は行つ
てしまつたのか、ぼくの祖父母のことを感じ
うかべながら見えてみました。

年をとつてじると、視界がせまつたために周
りが見えにくく、せとだんがおもこと感じた
ことがあります。農作業をする祖父母に、ぼ
くが遠くから声をかけると、ぼくの姿をなか
なか見つけられず、時間がかかる時があります。また、会話をある時はゆつぐつ見えない
と聞こえにくいため話が伝わりづか、一度話
したこと忘れやすじることもよくあります。高
れいの方は、めりめる場面で不便な面が多い
な感じます。せつとされば、運転する時も

同じなのではないかと思つまわ。

やつ思つと、速くはんだん出来るぼくたちが、何か気を付けることで事故を防げるといふがたくせんあるのではなかと思つます。そして、お年よりの方の見えづらいや聞くづらいやひなど、不便な面があることを理解してあげないとも大切だと思つまわ。

特に交差点では、歩行者と車、自転車が行きかうので、事故にあつやすじです。事故にあわないために、交差点にせじかかつたらしつかり左右をかくこそし、信号が青でも直ぐにわたつたり、無理にわたりつしなじりとを心がけてじまわ。

また、自分の心がけだけではなく、周りを見ることも気を付ける必要があると思つまわ。運転しているドライバーがどのよつな人か、げん速してくれるか、歩行者や自転車に気が付いているかなじ、車の動きをしつかり見る

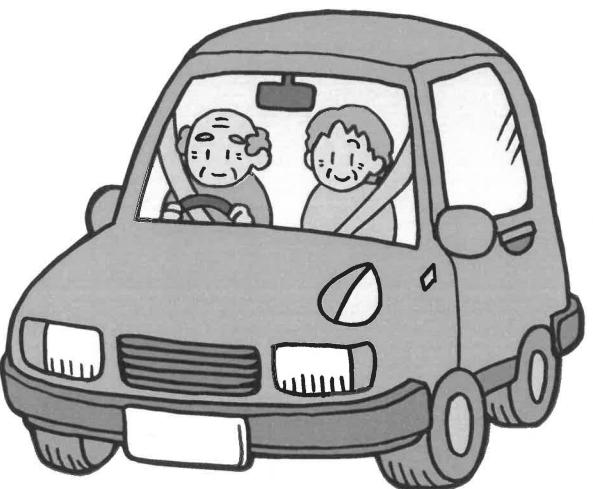
ひとりで自分の動きをどうすれば良いかが分からぬのではなかと思つまわ。お互にが、お互の動きをかくこすかぬ」と、防げる事故がたくせんあると思つまわ。

四年生になり、安全教育を受けたので、一人で自転車に乗つてみほくなつました。自転車に乗る時に気をせむることとは、ヘルメットをかぶる、危険な時は止まつたり押して歩く、友達とせよつ争しなじ、暗くなると危険なので乗らなじりと、とじつしまわ。そして、スピードを出しきなじりと。自転車にはスピードメーターがつこうむり、スピードを出しきなじたために、通常はハーテキロメートル毎時で走るといじてじまわ。自転車に乗るたびに、スピードメーターを見るように心がけ、このスピードだつたが安全に止まれるといふのが分かつました。

自転車に乗れるようになり、スピードを意

しやかぬ」とせとひも大事だと思つまつた。自分が気が付いていない間に、つこ出しすぎるのがスピードで。速ければ速じほど、何かにぶつかった時に事故やけがをしてしまいます。車も同じで、安全に止まれるスピードがあると思つまわ。

スピードを出したじまわ、「急ぐら」かうだと思つまわ。学校へ出発する時間がつづもよつねくなど、とてもあせつまわ。家のげん闇を出る時、あわててくつをめり、「行つてきまわ。」を叫つてじまつまわ。その時から急ぐ心になつてじまわ。急いで学校に行かないといけない気持ちつぱつで小走りになり、周りに注意する意しきを持てなくなつてじまわともあります。車も自転車も歩行者もみんなが急ぐらになつてしまふと、注意ある意しきが持てず、安全ではなくなります。急ぐ心になつてじまわためにも、時間によ



いを持つて行動するのを心がけたじで。車や自転車を運転する人、歩く人、みんなが安全に心がけるより、思つやりを持つことが大切です。そのためにも、自分が事故をおこさないよう、交通ルールを守つてじまたいです。

交通事故から命を守る

岩国市立愛宕小学校

五年 浦田 愛穂

命。それは人間や動物が生きていくときにかかせないものだ。いつ、どこで何が起きるかは分からぬ。身近にも大きなきけんがひそんでいるかもしれない。どんな工夫をすれば交通事故を防止できることができるのだろう。交通事故を「ゼロ」にあることはむずかしい。ただ、少しでもへりあいとは出来ると思つ。私は、交通事故が少しでもへって、亡くなる人がへれば良いと思つ。

小さじ子供にもあわんがひそんでらる。

私は友達と一度2～3才の女の子の命を助けたことがある。その小さな女の子は車が通る近くの縁石のそばを泣きながら歩き、その小さな女の子は一人で信号のボタンをおしてわ

たわうとしていたのだ。私達はそれはあぶなじと思い、小さな女の子に声をかけた。私がどうしようかとまよつていると、通りすがりの大人が「どうしたの」と声をかけてくださつた。その方はとても優しく小さな女の子のおうちの人を私達といつしょに見つけてくれた。さうわざその小さな女の子は元気でケガも無くおうちの人と帰つた。私は助かつたことにほりとした。

次はあなたがそういう場面に出会つかもしれない。もし出会いてしまったら、いち早く助けてあげてほしい。それはきっと交通事故から命を守つたところになるとわかるから。

交通事故から命を守ることはそれだけではない。信号は手をあげてわたるなど交通ルールを守ることも、ひとつばな交通事故から身を守つたところになる。

✿佳作✿

おうだんはどうはてをあげて

周防大島町立城山小学校

一年 村上 優心

ぼくは、しようとつこうにはじつて、おうだんほどのわたりかたをなりこました。

てをあげて、サインとこえをだし「みぎよしひだりよし みぎよし」どちらのまんなかまでじくと、「ひだりよし」とこえをだし、みぎ、ひだりからくる風をかくにんしながらおうだんほどのわたります。

ぼくは、みぎもひだりもじらなかつたのでおぼえるのがたいへんでした。おまわりさんや、せんせい、おにいさん、おねえさんになどもおしえてもうつて、できるようになりました。



一人の油だんが大きな事故になり、交通ルールをきちんと守つてゐる人までまきこんでしまうかもしない。それを知つた家族などはどんな悲しい思いをすることだらう。私はそんな悲しい思いをさせたくない。だから私は、一人でも交通事故に油だんをさせたくない。かけがえのない大切な命を守りたいから。

べるがおじいちゃんとみていたのに
おぐにべるおがおじいちゃんのでいました」と
がありました。あるとべるおのうんじゅ
さんが、てあげてじるぼくをみておうだん
ほじりのまえでとまつてくれました。じりし
てじじかわからなかつたぼくにうんじんしゅ
さんは、てで「じりし」と、じりくれたので
じそじでわたりました。

ぼくは、うんじんしゅさんにおじいをして
「ありがとう」とおもつた。ところが、
これかじりのルールをまもつて、ねつだ
んせじりをわたりたじだ。

ぼくは、うんじんしゅさんにおじいをして
「ありがとう」とおもつた。ところが、
これかじりのルールをまもつて、ねつだ
んせじりをわたりたじだ。

ぼくは、うんじんしゅさんにおじいをして
「ありがとう」とおもつた。ところが、
これかじりのルールをまもつて、ねつだ
んせじりをわたりたじだ。

ぼくは、うんじんしゅさんにおじいをして
「ありがとう」とおもつた。ところが、
これかじりのルールをまもつて、ねつだ
んせじりをわたりたじだ。

事こを起じさないよにマナー を守る

周南市立徳山小学校

三年 水津 尊

ぼくは大人になつたら、めんきょを取つて
車を運転したいと思つています。今は、まだ
運転できなじので、お父さんやお母さんが運
転する車で出かけたりじ動したりしていま
す。ぼくたちの生活の中でとてもぐん利な車
ですが、交通事こを起じさせなじよに安全に
気をつかひのりなこと、事こがおきてしあり
といつむお父さんお母さんもあ。

交通安全は車を運転する人、自転車にのる
人、歩じてじる人、みんなガルールを守つて
なりたつと教わりました。でも、さい近は車
のあおり運転、お年よりドライバーの道路の
ぎやく走、スマートフォンを使つながらの運

手をあげてわたります。ぼくがドライバーになつたりぬあつぐこの坂もちで運転したいな
と思ひます。早く運転めんきょをとりたいと
思つよの交通安全の町にしたじと思ひま
す。

「自分の命と他人の命は重い。」

美祢市立麦川小学校

五年 上村 桃花

ぼくが大人になるまでに、車のせいのうが
もつとよくなつて事こが少なくなるようなそ
うちがつくかもしません。それでもやつぱ
り運転は車にのる人の氣もちだと思ひます。
ぼくだけじゃなく、みんなが安心して車を運
転できるように、一人一人がマナーの良じ
ライバーになつたりじと思ひます。ぼくも、
横だん歩道をわたる時は左右をかくにんして

私は、最近自転車に乗つてじる人をよく見
かけますが、自転車の事故が多発してじます。
自転車は便利なものだけど一歩まちがえれば
凶器になつてしまつ可能性があります。テレ
ビなどで小学生がおとしよりの人をひじてし
まつて亡くなつた方もいます。それあると
自分じやなくてお母さんやお父さんがお金を
払つたりしないとこせません。坂道でのス

スピードの出っ廻せとても危険だなと思つました。

たんに「ああここや」という気持ちで乗つてゐるといふんな風に人の命をひざつたりしてしまつます。

しかし、自転車と歩行者の事故以外にも、自転車と車の事故もあります。坂道でスピードを出してくる自転車と曲がりうとしてくる車がぶつかって事故を起つてしまつことがあります。どちらも相手が来ると思つていいないのでブレーキをかけずに走つてしまつます。スピードを下げて右左を見なうといふのに自転車と車がぶつかってしまつます。

小学生や中学生で、「ねえどうぞひこな」など、ヘルメットをかぶつずに自転車に乗つて車とぶつかつてしまつと大切な頭を強く打つてしまふ命に觸れるにになつてしまふ。めんどいわせじな、その一端で自分の命や他人の命がなくなつてしまひかもしだ。

運転してくる人みんながルールを守つているわけではありません。ひとつ、どこで事故をするか分かりません。もしかしたら、自分のお母さんやお父さんが事故にまきこまれてたりして、出かかるときの「行つてもます」というにげなう一言が最後になつてしまふかもしれません。だから、親を大切にしないといけないと感じました。

事故を少しでもなぐたために私になにができるかなと考えてみました。私は、スピードを出しやせなうように自転車に乗ること、右左をきちんと覗なことじかなること感じました。

あと、私はまだ車に乗れないけど、乗つたときにあわんと交通ルールを守つて事故が少しだもなぐなればじこなと感じました。

一人ひとりが気をつけないと自分の命もあがないし、相手もあぶないでの自分が守らなければいけないルールを守つて交通事故を減らしてじきたこと感じました。

いきなり、交通事故にあつ私以外の家族がいなくなつてしまつたり悲しいし、辛いです。交通事故は、完全にはなくなつないものだなと思いました。一人ひとりがルールを守るわけではないので交通事故にあつたとしても、死者が出なうよにしてほしこ。

私は、この交通安全の作文をかいてみて、あらためて人の命は何十倍も重たいものなんだと思いました。自転車に乗るときは、ヘルメットと安全チョッキをつけてスピードを落としながら運転したのです。自分が車に乗るときは、交通ルールを守つながら事故をぜつたしにしなうように安全運転で行きたいです。

私は悲しいと思つました。それは小さな子どもなどが交通事故にあつて亡くなつてしまふとこれから的人生がなくなつてしまつます。命は、お金で買えません。なのでいつもいつしょにじるとはあうじことじやないのかなと思いました。ニュースなどで車が人をひいて死んでしまうこともあります。私は、他の知りなれの人のがたくさんいます。私は、他の知りなれの人のがなくなつたとしても「へーそつなんだ。ふーん」

みたいな感じで見ていたので本当はもっともつと大事な命なんだと考えさせられました。もし、私が知つてゐる人だったりすゞべ悲しいなと思いました。私が気をつけている事故にあつかもしれません。そしたら、家族やじ近所の人を困らせてしまつことがたくさんあると思います。今も、多くの人の命がうばわれてゐるんじゃないかなと思つます。

ません。

この世の中にはたゞさとの車があつます。運転してくる人みんながルールを守つているわけではありません。もしかしたら、自分のお母さんやお父さんが事故にまきこまれてたりして、出かかるときの「行つてもます」というにげなう一言が最後になつてしまふかもしれません。だから、親を大切にしないといけないと感じました。

事故を少しでもなぐたために私になにができるかなと考えてみました。私は、スピードを出しやせなうように自転車に乗ること、右左をきちんと覗なことじかなること感じました。

あと、私はまだ車に乗れないけど、乗つたときにあわんと交通ルールを守つて事故が少しだもなぐなればじこなと感じました。

自分の命は自分で守つて、交通事故が少しくもなるように、そして死者が出ないようになります。

自転車による交通事故をなくすために

光市立光井小学校

六年 品川 陽向

私の学校では自転車によるルールがきびしい方だと思いますが、それでも母は心配だそうです。たぶん他のお母さんたちも心配だと思います。それくらいに多い交通事故ですが、私たちにとって一番身近な乗り物の自転車による交通事故を防ぐためにはどんなことが必要なのでしょうか。

まずは学校で決められたルールを守る。これが一番大切だと思います。光井小で

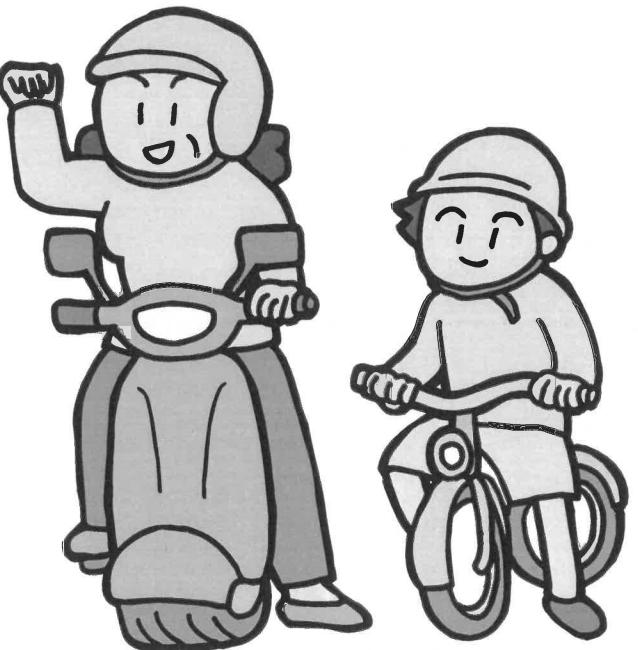
くかもしけませんが、私達は自転車をおりてわざるといつ事を知つていただき、少しまつてほしことつことですか。

このように自転車は、便利ですが規則を守らなじと、自分の命を落としてしまうもの一つです。なので私が書いた文をぜひ実現し、自転車による事故をなくし、一つでも多くの命を救えたらなと思います。私も、きちんとルールを守つて上手に自転車を乗りこなしたいですか。

例えると学年ごとで行動はんじを決められていたり、ヘルメットは絶対かぶらないといけなかつたりといつルールがあります。このルールがあるから、今、安心して乗りせているのでしつかりルールを守つて行動してほしいです。

次にスピードを出しきせなじ。こつどりから車がでてくるか分かりません。なので急いでいるときスピードを出しきせるため、急がなくてこつゆうに時間にゆうをもつて、自転車で行動してほしこですか。

そして車を運転する側にも知つてほしこ。これは交差点での事です。横断歩道は自転車をおりるのですが車はそれを知らなじので、自転車だから速く横断歩道をわたると思われて、少しもつてほしこのですがすぐに曲がられるので車とせつしょくしうになる事が多くあります。車を運転する方には、めいわ



交通安全ポスター最優秀賞作品



周南市立久米小学校
4年 佐藤まいこ



山陽小野田市立
本山小学校
1年 瀧原成翔



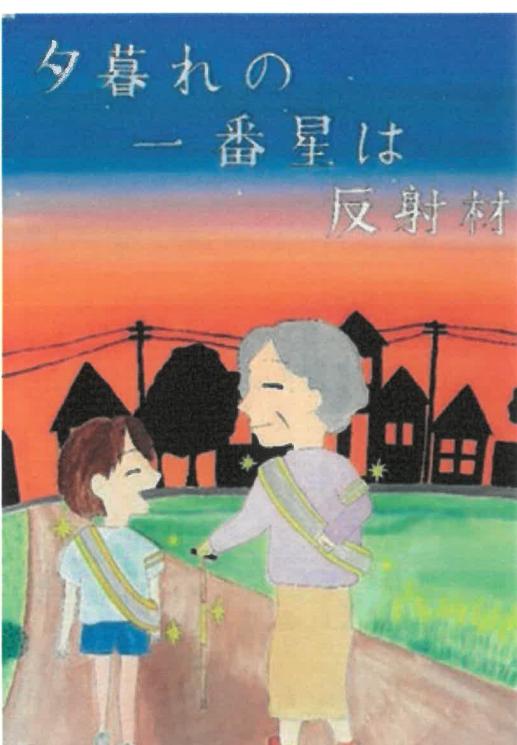
下関市立文関小学校
5年 山脇実桜



周防大島町立明新小学校
3年 古崎陽大



山口市立白石中学校
2年 村松 佳歩



長門市立日置中学校
3年 植松 優月



山口県立宇部高等学校
2年 藤本 いのり



周南市立富田東小学校
6年 年光 紗彩



山口市立白石中学校
1年 長尾 優希

安全教室があった。手を挙げて、横断歩道を右よし、左よし、右よし、と見て渡る。小学生の時きちんと出来ていた当たり前の事が、中学生になつた今、ちゃんと出来てないだろうか。大丈夫だからと、おこたつてほしないだろうか。私が事故にあれば、父も母も妹も、祖父や祖母も、きっと沢山の人人が悲しむだろう。

交通安全のルールは、自分を守るために、大切な人を悲しませないためでもあるのだと思う。事故は、じくつかの偶然が重なつて起つ。決して他人事ではない。生活していく中で、誰でも事故にあってしまう可能性はゼロではない。だからこそ、交通ルールをきちんと守つて、事故を防がなければならぬ。車を運転するドライバーは、常に、自分の命と、人の命にも責任を持つ必要があると思う。特に高齢者は、車が来て避けるのにも時

間がかかる。横断歩道を渡るのも、ゆっくりだ。誰もが皆歳を重ね、じつか自分もその立場になるのだから、優しく、温かく気持ちで高齢者の安全を私達で守つてあげたし。

妹の初登校の日に感じた気持ちを、私はずっと忘れずにいたし。

大切な家族の

「ただいま」

の言葉だけで、毎日幸せを感じていただけ。命よりも大切なものなんて、いの世には絶対にならぬのだから。

自分の命は自分で「かわい」。

大切な人との、かけがえのない日々を、決して失つてはいけない。

必ず明日も

「ただいま」と声おひ。

命が大事

と声おひ。

優 秀

「命が大事」

萩市立萩東中学校

二年 山縣 宗一郎

「命が大事」

と大きな声で言つておひ。僕に言つとこつよひ、自分に言つて聞かせるよひに言つておひ。

これは、我が家で車に乗つた時に掛け合ひ合言葉です。特に時間に遅れそうな時、長距離運転をする時に声を掛け合ひます。この声を掛け合ひと、父や母は気が引き締まると言ひ、乗つてくる僕も時間よりも命の大切さを意識します。

僕がよく車に乗るのは、習じ事の行き来の時です。僕は準備が遅く、よく時間ギリギリの出発になつてしまふのです。

そういう時に限つて、言ひには何度も止められ、前にまゆつひつと走る車が止まづ。

僕がよく車に乗るのは、習じ事の行き来の時です。僕は準備が遅く、よく時間ギリギリの出発になつてしまふのです。

そういう時に限つて、言ひには何度も止められ、前にまゆつひつと走る車が止まづ。

「何で」「んなに」「かわいいのかかるの?」
「わつとはやく走つて!」
と、イリイリヒロに出てしまつます。そんなときは母は

「命が大事」

と大きめ声で言つておひ。僕に言つとこつよひ、自分で言つて聞かせるよひに言つておひ。

僕の通学路には、言ひのない横断歩道があります。朝の時間には、そこをものすゞースペードで車が走つてきます。その横断歩道には、毎日児童の隊のおじさんさんが立つてくださいしておひ。小学生の僕は、おじさんさんが、「今のは先の言ひ間に合ひよひに、猛スピードで走つてくる車が多くなり、気をつけんといひよ。朝は焦つて運転している車が多いからね。でもいこを猛スピードで走つていっても、次の言ひでひつかかるから、五分も変わらんのにな。」

と話していくだけだったことを毎朝、その横断歩道を渡るときはじつも思ひ出しそうな気がします。

小学生のいひはよくわかつてこなかつたけれど、自転車で移動することが増えた今は、その五分を取り戻したくなる気持ちもわかります。そして、その五分は結局取り戻せないことがほとんどなのと、取り戻せても、そのために色々な危険があつたことも気づいています。でも焦つてると、その気持ちは薄れてしまひます。

自分のせいで失つた五分を、信号や他車のせいにし、イライラしてしまひます。自転車の運転にしろ、車の運転にしろ、運転には心のゆとりが必要です。焦つてると、普通に走つてゐる他車が遅く感じたり、普通なら走らない速度を出したり、一時停止をおこしたり、左右の確認をおこしたり、普段では

ありえないミスをするとおもつます。誰かが焦つてそんな運転をするといふと、ルールをきちんと守つて安全運転してこむし、事故に巻き込まれてしまひことがあると思います。

自分が気をつけたことも防げない事故があるけれど、自分が防げる事故も色々あると思ひます。でもたいしたことない事故は、本当に走つてゐる車間距離を詰めたり、無理な追い越しをしようとしたり、やずれなかつたり……。

今、すべてで取り上げられてくるおおり運転も、この焦る気持ちや余裕の無さから起きてくる場合もあると思ひます。

心のゆとりがないために、他車の運転にイライラし、車間距離を詰めたり、無理な追い越しをしようとしたり、やずれなかつたり……。

交通事故をわざと起つたひつとまじつてこないだろつけれど、そんな運転をしてくると、事故は起きてしまひと思ひます。

たつた一度のイライラした感情のせいで、人にけがをさせたり、人の命をうばひふことになるのです。

そしてその事故はいくつも後悔してやり直しあくとも、その時には戻れないのです。焦りをなくして、ゆとりを持つこと、そして何より安全運転をいつも意識することできないうちにできる」と。それが未来の自分が車を運転できるようになつたときにつながるのだと思ひます。

今、僕があるべきことは、自分の生活を見直し、時間と心に余裕を持って行動できるようになると。それが交通ルールを守るためにできる」と。それが未来の自分が車を運転できるようになつたときにつながるのだと思ひます。

「命が大事」

ありえないミスをするとおもつます。

誰かが焦つてそんな運転をするといふと、ルールをきちんと守つて安全運転してこむし、事故に巻き込まれてしまひことがあると思います。

自分が気をつけたことも防げない事故があるけれど、自分が防げる事故も色々あると思ひます。

自分が気をつけたことで起きる事故は、本当に走つてゐる車間距離を詰めたり、無理な追い越しをしようとしたり、やずれなかつたり……。

今、すべてで取り上げられてくるおお

り運転も、この焦る気持ちや余裕の無さから起きてくる場合もあると思ひます。

心のゆとりがないために、他車の運転にイライラし、車間距離を詰めたり、無理な追い越しをしようとしたり、やずれなかつたり……。

運転するみんなの合図葉。みんながじつも思ひながら運転し、安心して暮らせん町にしたいですか。

「僕は今日も仮想安全運転」

山口大学教育学部附属山口中学校

2011年 三月 十四日

「あつー。」「あつー。」

その瞬間、僕の体に衝撃が走つた。ある冬の日曜日、僕たち家族は隣町の映画館に向かっていた。

家族でのドライブは大体、父が運転だ。僕と妹はジャンケンで助手席の権利を争い、その日は僕が勝利した。

僕はいつか免許を取得し運転する日のため、助手席に座ると仮想運転するひつとしている。結構、楽しいのだ。

もうすぐ映画館。駅前の大好きな交差点を直進。前の車との車間距離、信号は青、このまま直進。僕の仮想運転と父の運転はばつちり同じ。

その時、僕の田に（おやじの父の田にも）入ったのは対向車線の右折レーンに停まつていた白い車。じきなり急発進した。

「あー！」衝撃で、僕の体は左右に揺さぶられた。一瞬、頭が真っ白になつた。そして父の「大丈夫かー？」といつも緊迫した声。後ろから母の「痛ー！」といつも弱々しい声。

僕は「大丈夫だよ」と答えるので精一杯。振り向くと妹は無表情で固まつていた。びっくりしたのだろう。

少し冷静になり様子をうかがうと、どうも父はぶつからないうにハンドルを切り急ブレーキをかけたようだった。交差点の真ん中で斜めに車は停まつていた。その後車を端に

移動した。

白い車と少しづつかったようで、僕たちの黒い車にはガリガリと傷が入つていて。人通りが多い場所で立ち止まり見ている人も多く、その視線に僕は恥ずかしくもあつたが、その中の誰かがすぐ警察に連絡してくれたようだ。じきに電話するより早くパトカーが来てくれた。警察官の方はテキパキと事故処理をし、車内で待機している僕や妹の体調などを聞いてくれた。妹はいつもと違ひ口数が少なくなっていたので、僕はわざとふざけたりして笑わそうとした。白い車の運転手は免許取り立てで不注意だったと話し、僕たちにも謝りに来てくれた。母は笑いながら「もし運転していたのが私だったらもっとひどい事故だったわよ。これぐらいで済んでよかったわ。これから運転に気をつけたね。」と言つていたが、帰宅してから肘を痛がりだし熱がで

た。

これが僕が初めて経験した交通事故だ。（もう経験したくはないが……）

僕はあの母の言葉に少し恐怖した。本当に母が言う通りにもつとひどい事故だったらしい……。

肘を痛めた母に代わり、一緒に家事をしながら僕は父と話した。「よかつたよね、あれ位ですんで。」笑いながら言った僕に、父が答えた。じつもの明るく優しい感じとは違つ声、あの時の緊迫した声に少し似た声だった。

怖い思いをさせてしまつた。僕たち子供が無事で本当によかつた。運転中の、ほんの少しの不注意で幸せな生活がなくなるかもしない恐ろしさ。世の中には悲しみ苦しむ交通事故被害者や家族が多いこと。被害者だけではなく加害者も苦しむこと。

父は高校生の頃、自転車通学中に事故に

あったそうだ。小さな横断歩道を青信号で直進中にはねられ、十数メートル飛ばされたが、奇跡的に助かつたらしく。もし、その時ヘルメットをしていなかつたら、打ち所が悪かつたら僕は生まれていなかつたかもしれない。何とも言えない気持ちだ。運がよかつたのか。いや、運とか言つたり交通事故の被害者に失礼だ。運悪く事故にあつたのではない。やはり交通事故は過失があるからこそ起つのだ。何事にも結果には原因がある。交通事故が起きる原因は心の油断だと思つ。

僕は今回の事故をきっかけに、通学中や乗車中に周囲を注意深く観察した。スピードの出しすぎはもちろんだが、何か食べたり飲んだりしながらの運転。車をすり抜けていくバイク。スマホを見ながら走行する自転車。横断歩道のない場所を横切る人や自転車たち。危険がいっぱい見ていて心臓に悪い。その

油断した行動が重大事故を起こすかもしないのに。

「ユースを見れば毎日じかで交通事故。僕は、今までユースの中の出来事はどうか他人事だった。その時、胸が痛んでも数時間後には忘れていた。

あと五年程で僕は運転免許を取得するだろう。その日のために、助手席に乗れば僕はいつも仮想運転。なるべく注意深く、周囲を見渡す。いつか運転する時、被害者にも加害者にもならないために、世の中の誰も危険な目に合わせないよう」一人ひとりが注意深く責任を持ち、譲り合ひの気持ちを持つて、交通事故で悲しむ人がこれ以上増えないように願います。

「一瞬の油断。一瞬の事故。」

美祢市立美東中学校

一年 小林 もも

私の通う中学校は、今まで、安全を考慮して、自転車通学は、認められていませんでした。しかし、今年度から、決められた区域から通り生徒は、自転車通学ができるようになりました。私は、友達と一緒に、自転車で学校に通っています。私たちの通学路は、車や人が少なく、安全な通学路だと思つていました。しかし、実際に、登校してみると、見通しの悪いカーブの道がありました。そこは、木などで道の向こう側が隠れ、いつ車が来るのか分からせん。

ある日のことです。友達とその道を通りて

じるときでした。友達が車とぶつかつたになつたのです。私は思わず、「危ない。車が来てくる。」

と必死で叫んでいました。友達は、車に気づき、すかさず、はしによりました。私も、友達もとても、驚きました。友達に、車とぶつかりそうになつた瞬間、どんな気持ちだったかと聞くと、

「やつ、死んでしまつのかと思つた。」

と叫びました。事故は、本当に一瞬のうちに起きてしまうのだなと、その時感じました。友達は、力がをせずにすみました。本当によかつたです。

友達が、車にぶつかつになつたのは、友達が運転に集中せず、よを見てはいたために道の真ん中に寄つてしまつたからでした。車の方もスピードが出ていました。車の中の人も、一瞬でしたがとても驚いていました。

二つ目は、話などに気をとらてしまつたのです。私は、友達と話しながら行きますが、時々、話に夢中になりすれど、車が来てくるのに気づかず、車が横を通りたときに、気がつき、驚くことがあります。

事故は、一瞬の油断で起きてしまうことがあります。事故は、一瞬の油断で起きてしまうことがあります。

今回あつたことから、どのような時に、事故が起きてしまうのかを考えました。私は、事故が起きてしまう原因を一つ考えました。

一つ目は、家を出るのがおとなつた時などがのちにあります。私は、ちいをしてしまうと、周りのことに注意が向かず、自分だけのことを考えてしまします。すると、冷静な判断ができなくなり、事故につながるのではないかとおもいました。

二つ目は、話などに気をとらてしまつたのです。私は、友達と話しながら行きますが、時々、話に夢中になりすれど、車が来てくるのに気づかず、車が横を通りたときに、気がつき、驚くことがあります。

事故は、油断や慣れで起きたことがあります。

このことをどれだけ気をつけたとしても、事故が起きてしまったこともあります。でも、油断をしないこと、運転のことを意識すれば、少しでも事故を防ぐことができると思います。

自転車は、自分が被害者にならないとあります。自転車は、いつもでも気軽に乗れて、歩くよりも、早く目的地に着くことができるのでとても便利です。しかし、事故を起してしまって、相手に大けがを負わせたり、相手の命をつばさしてしまった可能性もあるのです。高齢者の場合は、特に、止める確率が高く、命は助かっても、植物状態になってしまい場合もあるのです。普段、気軽に乗っている自転車は、ある時、急におそれじて凶器に変わってしまうのです。私ももしも、事故を起してしまったとき、相手を傷つけてしまったらと思うと

胸がしめつけられます。

自分たちが、事故を起しても、自転車の良い伝統を作つてほしいことが大切だと思いました。

思ひます。何十年後にも繰り返されますが私たちが、事故を起さず、自転車の良い伝統を作つてほしいことが大切だと思いました。

これから先、自転車事故が少しども、減らせるように、まずは、私たちから安全な運転をしていかねばなりません。

胸がしめつけられます。

自分のちよつとした油断で起きた事故は、相手の大切な日々をうばつてしまつます。被害者だけでなく被害者の家族もつらい、悲しい思いをされることがあります。これは決して人事ではなくのです。

自分にも起つたことがあります。常に頭に入れ、油断をせぬ、安全に運転してきました。

私は、自転車で、学校へ通るのが大好きです。たくさんのすてきな風景を朝早くから見えて「今日もがんばります!」と叫びながら走るからです。自転車は、凶器どころかおそれしい物にもなりますが、バスや車などでは味わえない、素晴らしいことに出会わせてくれるのであります。

今年度、やっと認めた自転車通学、これが、私は、何十年後も続けてこよし」と

シートベルトで守る命

柳井市立柳井中学校
三年 兼政 さくらひ

今月、私に嬉しいことがありました。妹が生まれたのです。幼い子の世話を好きな私は、妹ができるのをあげて楽しみにしていました。そして、今日は退院の日です。新型コロナウイルスの影響で入院中は病院に行けなかつたため、初めて妹と会います。そして私はこの日、父の車に取り付けられたチャイルドシートをきっかけに、交通安全について関心を持ちました。

病院に母と妹を迎えて行くため父の車に乗り込んだ時、後部座席にチャイルドシートを取り付けられていました。気が付きました。最初にチャイルドシートを見たとき、私は不思議に思つたことがあります。それは、チャ



イルドシートが進行方向に対しろ後ろ向きに取り付けられていたからです。どうして、後ろ向きに取り付けたるのだろうと疑問に思いました。父に尋ねたといふ、「これで正しこよ」と返答がありました。詳しく聞いたところ、新生児のチャイルドシートは安全のために後ろ向きに取り付けたのです。それは、もし事故が起きてしまった場合、まだ首もすわっていない新生児は前向きで衝撃に耐えることができません。少しでも衝撃を減らすために後ろ向きに取り付けることこのことを知りました。

病院に着き、妹と始めて会った感想は、想像以上に小さかったこと。新生児を実際に見て、抱っこるのは初めてだったのに、その体の小ささに驚きました。抱っこする時の少しの衝撃でも大丈夫かなど心配になる程度でした。

務についてです。私は、後部座席はしてむしなくてもどちらでも良いのかと思つていましたが、法律ではシートベルトは全席着用することが義務付けられています。しかし、実際は全席着用が守られていないようです。さらには調べていて中で、シートベルト着用の実態を調査した記事を見つけました。それによると、現在の一般道での後部座席のシートベルト着用率は約4割とされています。この数字はとても低いと思いました。法律で決まっていいるのに、半分以上の人人が守つてないことが不思議でした。

記事によると、着用率が低い理由には、一般道では後部座席のシートベルトの着用をしていないのも厳しい罰則が定められていないことにあります。私が以前見た動画では、後部座席のほうが危険であると紹介されました。大切な命が危険にさらわれているに

もし事故が起きてしまったとき、その衝撃は私の想像をはるかに超えるものだと思いました。私は以前、動画サイトで衝撃的な映像を目にしたことを思い出しました。それは、シートベルトを着用しない危険性を伝えるための実験映像です。後部座席に乗った人に見立てるマネキンが、事故の衝撃によって、すごい勢いで前方に飛ばされていくのです。その時は、交通事故は怖いなと漠然と思つただけでした。しかし、小さな体の妹を目の前にそのことを思いだした私は、交通事故の恐怖を強く感じました。

私は、この時に思つたことを今回の作文にしたこと、交通事故とシートベルトについて調べてみるとしました。これまで交通事故について関心を持ち、調べたことがなかったので、意外と知らないことがたくさんありました。まず、シートベルトの着用義務

もかかわらず、シートベルト着用が守られていないのは、運転手の意識が低いと思つました。

次に、チャイルドシートの正しく使い方についてです。子供は体が小さいので、普通のシートベルトでは十分に安全を確保できません。チャイルドシートを使ってしつかりと子供の体に合ったシートベルトをしなければなりません。しかし、これも正しく使われていないことも多いようです。母も妹をチャイルドシートに乗せるときに、かなりの時間をかけて調整をしていました。私が小さいときもこんな風に安全を守つてくれていたのだと思いました。

私の両親は、私が後部座席に乗る時もシートベルトの着用を徹底していました。以前は煩わしくて嫌だなと思つともありましたが、今は車に乗る時のシートベルト着用は絶

対に必要なものだと強く思っています。

私はまだ車の免許は持っていないませんが、に乗る機会はたくさんあります。その時、後部座席であってもシートベルトは自分の命を守るために必ずします。そして将来、私が車の免許を取り自分で運転するようになつた時、必ず同乗者には後部座席であっても、大切な命を守るためにシートベルトは必ずさせよつと思いました。

点検整備を受けた自転車に乗りましょう。

- 自転車安全整備店で点検・整備を受けると、その証としてTSマークが自転車に貼付されます。年に1回は点検整備を受けましょう。TSマークには、賠償責任保険と傷害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いており、平成29年10月からは、賠償責任補償限度額が5,000万円から1億円に倍増されました。もしもの時に安心です。
- 自転車安全整備店章のあるお近くの安全整備店へご相談ください。

赤色TSマーク付帯保険の補償内容と支払い対象

補償内容	傷害補償	賠償責任補償	被害者見舞金
	●死亡 ●重度後遺障害 (1～4級) 一律 100万円	●死亡 ●重度後遺障害 (1～7級)	●入院加療15日 以上の傷害
	●入院加療15日 以上の傷害 一律 10万円	限度額 1億円	一律 10万円

赤色TSマーク



自転車安全整備店章

